

上演⑩ 愛知高校「夏の夜の夢」

「オデュッセイア」と同様に高校生が古典の作品～シェイクスピアに挑戦した事に驚きましたが、大変わかり やすく高校生のための質の高いエンターテイメントに仕上がっていたことには脱帽しました。全体を通して、まるでカーニバルと言っているほどの楽しい雰囲気を保ち続けた俳優陣と演出は見事でした。

オープニングから世界観の確立が上手く、パックの貢献が大きかったです。作品中、跳ねて駆け回るダイナミックな動きとチャーミングな笑顔は本当に好感が持てました。元気一杯の演技の中でもう少し「囁き」や「意地悪さ」などの多様なセリフ回しがあれば、もっとイタズラ好きな妖精感が出たと思いました。

他の俳優陣も高い身体能力と表現力、豊かな声量で様々な人物たちを(時に大袈裟に)演じながら、話を紡いで いました。ヘレナの台詞回しは聞き惚れるくらい美しく、ハーミア、ライサンダー、デミトリアスは恋する若者 に相応しい情熱と滑稽さを持ってこの作品の動力となり、妖精王と女王も人間味ある気位の高さを見せてくれました。ピーター、ボトム、フランシスも各々の個性は出ていて、滑稽な場面を全力で演じて面白かったのですが、3人の連携芝居の際に間と動きが少しズレていた時もあった気がしました。色んな場面に笑いを込めすぎた 結果、3人の場面が爆発的な楽しさを出せなかった様に感じました。

美術は奥の台と木パネルのケコミについてネットと細裂き布を用いて、幻想的な雰囲気を作ろうという工夫が見受けられ、森に入った時の木パネルの登場タイミングは照明・音響が全て見事に一致していました。衣装も 細部まで見事に造形が行き届いており、妖精界・貴族・庶民とそれぞれに特徴が分けられていて良かったです。

上空にも幻想的な要素があれば、照明と組んで舞台空間の幻想絵の完成度がより向上した気がします。衣装は 最後に成立するカップル同士に何か僅かな共通点でも加えれば、登場人物たちをより分かりやすく追えたと思います。結局のところ、3組のカップルたちによるドタバタ劇がストーリーの基本ラインなので。 Horizont幕 の照明変化はもう少し抑制したほうが、場面や状況の雰囲気作りに集中できて効果的だった と思いました。